

却説併しながらライル氏の此提案が實際に如何許り便利なるかは之を普通の實例を以て 損益表と比較するにあらざれば恐らくは十分に諒解するを得ぬ所で示す ありませう。因つて今回も數字を取つて双方を作製して見ますると次の如き普通の損益表は必ずしも誤りしたものではあるまい。

損 失		利 益	
減價消却	9,000.—	總 利 益	
事務所維持費	1,200.—	商品賣上高	560,000.—
賣上品現金割引	3,500.—	仕入高	520,000.—
賣上品發送費	2,000.—	仕入品現金割引	180,000.—
貸倒金	2,500.—	所有建物貸貸料	3,120.—
巡廻販賣人手數料	4,500.—	特許權使用料	2,500.—
同上旅費	1,000.—	放棄物件收益	2,100.—

地代及税金	3,000.—	貸金利息	1,600.—
委託金	5,000.—		
高級事務員及幹部給料	38,000.—		
巡廻販賣人給料	2,400.—		
販賣員給料	5,000.—		
純 益			
配 金	50,000.—		
積 立 金	12,000.—		
繰越益金	7,720.—		
	69,720.—		
	142,320.—		

而も是に依るときは六萬六千二百二十圓の純益ありたるを知るを得るも賣買に依る純損益其他は其儘にては必ずしも一見明瞭とは言へぬでありませう。然るにライル氏の彼の提案に従ひますと是等の關係は次の如く次第を爲して現はれ出でますから極めて明瞭となるのであります。

損益表

損 失		利 益	
商品原價	520,000.—	商品賣上高	650,000.—
巡廻手数料	4,500.—		
販賣人給料	2,400.—		
旅費	1,000.—		
販賣員給料	5,000.—		
賣上品發送費	2,000.—		
	3,500.—		
總 利 益	111,600.—		
	<u>650,000.—</u>		<u>650,000.—</u>
地代及税金	3,000.—	總 利 益	111,600.—
事務所維持費	1,200.—	所有建物賃料	3,000.—
高級事務員及幹部給料	38,000.—	特許權使用料	2,500.—
減價消却	9,000.—		
貸倒金	2,500.—		
委託金費消	500.—		
普通營業利益	62,900.—		
	<u>117,100.—</u>		<u>117,100.—</u>
純 益	69,720.—	普通營業利益	62,900.—
		放資物件收益	2,100.—
		貸金利息	1,600.—
		仕入品現金割引	3,120.—
			<u>69,720.—</u>
		純 益	69,720.—
配當金	50,000.—		
積立金	12,000.—		
繰越益	7,720.—		
	<u>69,720.—</u>		<u>69,720.—</u>

ライルの提案せる區分的損益表に就て最後に猶ほ一言を必要とするは此表の左右兩側の金額欄を三四欄に分ち年度順に之に記入し行くときは茲に各年度に於ける營業成績一覽表とも稱す可きものを得可しといふことでありまして、此は讀者に於て必ず記憶に値すと考へらるゝ所であらうと存じます。

聯合準備金 損益表の改造を試みたる他の例として第二に私の掲げんとするは米局の範式 國聯合準備金局の提案せる次の如きものでありまして、此は初めより

各年度の成績を比較し得る様になつて居りますが、ケスター氏の言ふが如く金額欄を一つとなすときは、否寧ろ二つとなして一欄を内側欄となし一欄を外側欄となすときは、毎年度の損益表とも爲し得るのでありまして、是は讀者の容易に活用し得る所なりと申す可きであります。

所得ヨリ控除ス可キモノ				圓	圓	圓
社債	拂手	利形	子利	圓	圓	圓
支拂	控	除	額	圓	圓	圓
純所得	特別	一損	益	圓	圓	圓
特當	特別	損	益	圓	圓	圓
當年	期	損	益	圓	圓	圓
配	當	餘	金	圓	圓	圓
年	末	剩	餘	圓	圓	圓

會計學本論

損益比較表

	年度	年度	年度	會計學
賣上總額	圓	圓	圓	
內、發送費	圓	圓	圓	
純賣上	圓	圓	圓	
年始手許在	圓	圓	圓	
純仕入	圓	圓	圓	
合計	圓	圓	圓	
內、年末手許在	圓	圓	圓	
賣上原價	圓	圓	圓	
賣上總益	圓	圓	圓	
販賣諸費用	圓	圓	圓	
(項目ハ元帳ノ口座ト同シクス)				
販賣費合計	圓	圓	圓	
一般經費	圓	圓	圓	
(項目ハ元帳口座ト同シクス)				
一般經費合計	圓	圓	圓	
管理費用	圓	圓	圓	
(項目ハ元帳口座ト一致セシム)				
管理費合計	圓	圓	圓	
賣上純益	圓	圓	圓	
其他ノ所得	圓	圓	圓	
放資物件收益	圓	圓	圓	
受取手形利子其他	圓	圓	圓	
純所得	圓	圓	圓	

テイツキン 第三にエー、ロオウエス、テイツキヤンソン氏が一九〇四年聖ルイスに開  
 ソン氏の監 かれたる會計士評議會に提出したる損益表の範式も亦た屢々引用せ  
 式 たるノ所でありますから左に之を掲げて見ますと、其は

總 收 入 (製品の賣上たると輸送賃錢 たると職業報酬たるとを問ふことなし)	圓
控 除 額——製造費又は營業費	
(a) 製 造 費 (工業會社の場合)	圓
勞 銀	圓
材 料	圓
一 般 製 造 費	圓
(b) 營 業 費 (工業會社以外の 場合)	
(營業の性質に準じ適當なる名目	

を附す可し)

總 利 益	圓	圓
其 他 ノ 收 入		圓
控 除 額		圓
販 賣 諸 費 用 (工業會社の場合に限る)	圓	圓
監 理 經 營 費 (作業部と別なる場合に)	圓	圓
營 業 純 益	圓	圓
控 除 額		圓
社 債 利 子	圓	圓
其 他 の 固 定 費	圓	圓

後期繰越剰餘金					
当期剰餘金					
特別利益金(詳細に掲ぐ可し)					
前期繰越剰餘金					
控除額					
当期營業に課し得ざる特別費用					
株式に對する利子及び配當金					

の如くであります。乍併、斯様にして幾多の形式を掲げ行くときは讀者は終に其形式作製の煩に堪えずして適從する所を知らずと申さるゝのでありませうから、要領は利益の生ずる各部門毎に其泉源と費用とを掲げ、其成果より經常入費を除き因つて普通營業収益を確め得たるときは之に特別損益を加減し純然たる損失を控除し斯くて算出し得たる当期純益を適宜に處分して之を表示するの

であると言ひ添へて之を打切ると共に、私の此講義も亦た之を以て其結末と致し型より入つて型より脱するを要諦とするせよ。ものにして此點諸多の學問藝術と異なる所あるを見ずと心に會得せらるゝならば私の目的は既に十分に達せられたのであります。

62  
4/13

終

